

「スポーツ×農業」を全国に
一フレッサ福岡をモデルに

東北学院大学スポーツマネジメント研究室

○千葉 悠樹 伊沢 香奈 窪田 陽香 小島 凌
近藤 優太 今野 歩武 斉藤 康之介 角田 穂乃香
蜂谷 風未子 嶺岸 諒 矢作 美香

1. はじめに

日々生活をしている中で農業人口の減少や農家数の減少という問題をよく耳にする。実際、1985年に約420万あった農家数も2010年には約250万まで減少している。また日本全体の少子高齢化に伴い、農業従事者の中でも高齢化が進み、後継者不足が問題視されている。この農家減少や高齢化、後継者不足の背景として、「魅力の少なさ・儲からない・野菜の消費の減少」があるのではないかと考える。私たちは日々農作物を消費しているにも関わらず、こうした問題を抱えている。

一方、スポーツにおいては成人の運動実施率の低下や、スポーツ選手のセカンドキャリア問題が存在する。これは、スポーツがサッカーや野球などにニーズが集中していることなどが要因なのではないかと考える。

農業の課題である労働者不足や後継者不足はスポーツを掛け合わせることで農業を知るきっかけになり、農業をしながらスポーツもしたいという人のニーズに応えることができる。スポーツの課題である運動実施率の低下やセカンドキャリア問題は農業を学びながらスポーツをしていくことで引退後、農業というセカンドキャリアを作ることができる。また、スポーツをする機会の提供にもつながるのではないかと考える。そこで我々は、スポーツと農業の両方の問題を解決出来る政策を提言する。

2. 研究・調査の方法と概要

事前に決めておいた質問事項に加えて、実際の経験や状況、具体的な事例などを聞き取るために面接調査を行った。また、それぞれの調査から頻出単語を抜き出し関連事項を調べたところ、セカンドキャリアや地域、補助金といったキーワードが得られた。

(1) 面接調査①

- ア. 調査対象：吉田いちご農園
- イ. 調査日時：2017年8月5日（土）
- ウ. 調査内容：農家・農業の現状と課題の調査。

(2) 面接調査②

- ア. 調査対象：糸島市役所

イ. 調査日時：2017年8月23日（水）

ウ. 調査内容：糸島市における農家・農業の現状調査。農業補助制度について。

(3) 面接調査③

ア. 調査対象：福岡県庁

イ. 調査日時：2017年8月23日（水）

ウ. 調査内容：福岡県における農家・農業の現状調査。農業次世代人材投資事業について。

(4) 面接調査④

ア. 調査対象：フレッサ福岡

イ. 調査日時：2017年8月23日（水）

ウ. 調査内容：「スポーツ×農業」を実現したフレッサ福岡の事例について。

(5) 面接調査⑤

ア. 調査対象：宮城県庁

イ. 調査日時：2017年8月29日（火）

ウ. 調査内容：宮城県の農家・農業の現状調査。農福連携について。

3. まとめ・提言

(1) 提言概要

調査の結果から、フレッサ福岡が活用している農業次世代人材投資事業について、福岡県ではこの制度を利用する人が年々増加しており、それに伴い「福岡県や糸島市で農業をしたい」という人も増加していた。また、フレッサ福岡は農業をしながらスポーツをすることで選手のセカンドキャリアの中に農業という大きな選択肢が生まれていた。これにより農業が注目され、労働者不足や後継者不足といった問題が解決されることを目指しているということが分かった。さらに地域の特産品を作ったり、地域貢献活動を行ったりと地域との関わりを強くすることでお互いの信頼関係や協力関係を築いていた。

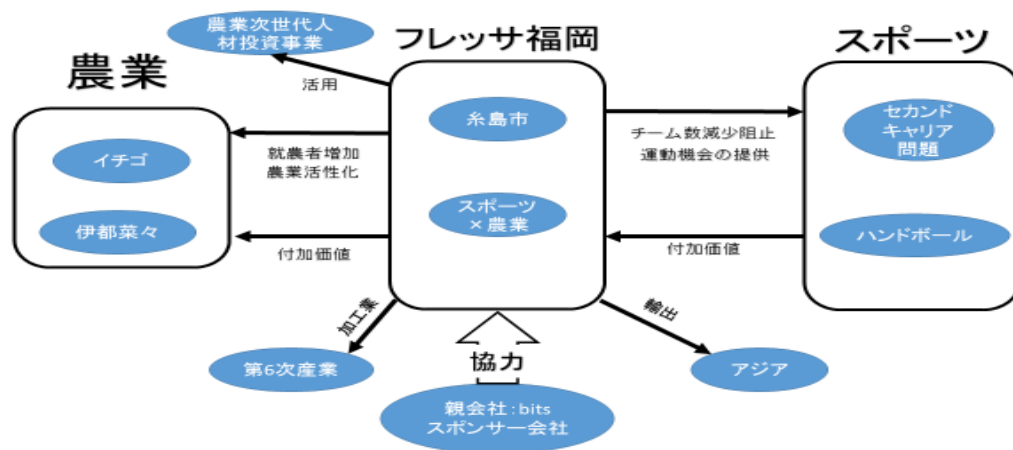


図1：フレッサ福岡のモデル

そこで、調査結果をもとにスポーツにおける問題であるセカンドキャリア問題やスポーツ競技人口、アマチュアスポーツチーム数の減少と農業における問題である就農者数、農家の減少、高齢化、後継者不足問題を解決するために、我々はフレッサ福岡をモデルにした、「スポーツ×農業」をコンセプトに活動するスポーツチームの設立を提言する。

ア. スポーツの選択

「スポーツ×農業」をコンセプトに活動するスポーツチームを作るにあたって、大前提となるのが、スポーツでは収入を得てはいけないということである。これは農業次世代人材投資事業の条件の1つである。この事業には最長2年間農家や農業法人などで農業に関する研修を受け、その後就農するという条件がある。そして、農業をしながらスポーツである程度勝ち抜くには、サッカーや野球などのプロが多いスポーツではなく実業団などのプロの少ないアマチュアスポーツであること、さらに1チームを構成する人数が多くない競技が望ましいと考える。例として挙げられるのは、ハンドボールやバレーボール、フットサル、バスケットボールの3×3、ボウリングなどがある。また、競技の練習場所やコートを一般の人でも確保出来ることも必須条件であると考えられる。

イ. 農業

作物に関しては、農家や農業法人に研修に行くので自ら決定することは出来ないが、フレッサ福岡ならばイチゴのように、チームの色や象徴となるような作物・ブランドをある程度決めておく必要がある。就農する際のメリットとして転勤などはもちろんなく、一日のスケジュール、時間の融通が利くことが挙げられる。また、補足として、漁業に関しても農業と同様に国から新規従事者に対する給付金制度があるため、ある程度漁業が盛んな地域であれば漁業との連携も期待ができる。

ウ. 企業や行政との連携

フレッサ福岡は複数の企業とスポンサー契約を結んでいる。例えば **High speed green** という企業は福岡産の農作物を中東などに輸出する企業である。**Bits** という農業法人は農家などから余った農地を借りてそれをさらにフレッサ福岡に貸し、そこで農業を行っている。このような輸送業を行う企業や、その他にも加工業を行う企業などと連携することも必要であると考えられる。そうすることで、事業拡大や宣伝、資金確保につながる。また、地元の高校や大学と連携してコートを借りたり、合同で練習したりしている。

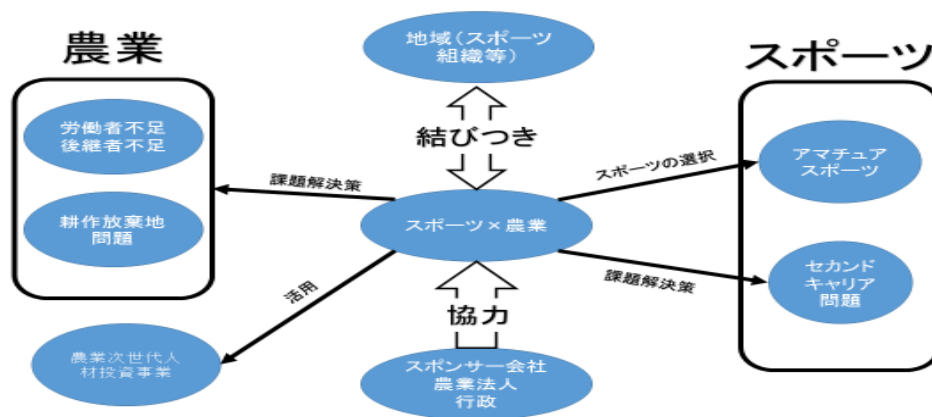


図 2：提言内容の構造図

(2) まとめ

「スポーツ×農業」をコンセプトとするスポーツチームを作るにあたり、重要となってくるのは地域との良好な関係とスポンサー会社、農業法人などの企業との協力関係である。他の地域でも農家から農地を借りて他の団体に貸すことが出来る団体があれば活用できるのではないだろうか。これらのように企業や農業法人との結びつきを強めることで、チーム自体そしてそれを支える周囲の規模が大きくなり、課題解決に向けた動きも強まっていくと考える。

2020年に東京五輪・パラリンピックの開催が決まり、日本全体でスポーツに注目が集まる中で、逆に主要スポーツに埋もれ、光が当たらないスポーツも存在する。そのようなスポーツは競技人口やチーム数が減少し、続けたくても続けられないという状況が起きてしまう恐れがある。また、スポーツ界全体の問題としてセカンドキャリア問題や運動実施率の低下など、様々な問題を抱えている。

私たちの食生活を支える農業においては、人口減に伴い労働者不足、後継者不足に悩まされ、それにより使われていない農地である耕作放棄地も増えてきている。

農業とスポーツ、一見かけ離れた存在に思えるこの2つを掛け合わせ互いの問題を解決させるために、スポーツを続けることの出来る環境、農業に携わることの出来る、興味が持てる環境づくりを、今回我々が掲げた「スポーツ×農業」をコンセプトとしたスポーツチームが増えることで解決されることを期待する。

<参考文献>

- ・農林水産省 農業センサス

<http://www.maff.go.jp/index.html> (検索日 2017/9/25)

- ・笹川スポーツ財団 スポーツライフ・データ 2016

<https://www.ssf.or.jp/research/sldata/tabid/327/Default.aspx> (検索日 2017/9/25)